



秋田県立比内支援学校 たかのす校教育プラン

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状と課題】

- (1) 本校は昭和52年の開校で、本年度創立40周年を迎える。北秋田市中心街から南に位置し、吉野学園や陽清学園等の施設に隣接している。
- (2) 児童生徒数は高等部設置により増加し、近年は40人台を維持している。小規模校のよさを生かして、自立と社会参加に向けた様々な取組を積極的に展開する必要がある。
- (3) 児童生徒数の増加に伴い、教室等の配置に工夫が必要になっている。特別教室の転用等、限られたスペースの有効活用をしている。
- (4) 吉野学園から借用している農地を活用して、全校児童生徒が農作業に取り組んでいる。さらに地域資源を活用し、農作業の生産物を加工・販売して多様な学習活動を推進する必要がある。

【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- (1) 近年、児童施設再編等により、学園生の割合は全体の1割程度と急激に減少しており、その傾向は傾向今後も続くことが予想される。一方で、平成25年度からのスクールバス配置にともない、利用する児童生徒は増加しており、限られた乗車定員の中での児童生徒の通学手段の確保が喫緊の課題である。
- (2) 少子化にともなう地域の人口減が一層進むことが予想される。地域での学習を積極的に進め、地域で生き、地域に貢献する人材の育成を推進していく必要がある。
- (3) 本校には1市1村から特別支援教育にかかる支援要請が多く、今後も地域における特別支援教育推進の中心的な役割を担っていく使命がある。

II 目指す方向性 ・ 学校像や幼児児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- (1) 「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくり」を推進する。
- (2) 「子どもの思いや願いに応える」をキーワードとし、社会に参加する力を育む教育活動や実践研究推進事業を展開する
- (3) 地域の特別支援教育のセンターとしての役割を積極的に担う。

【目指す子ども像】

- 健康：心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実：喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立：自分のことは自分の力で成し遂げようと努力する子ども

【平成25年度～29年度】

[たかのす校]

- 恵まれた自然環境を生かし、児童生徒の自立と社会参加を実現する学校
- 「街は大きな教室だ」を合言葉に、地域と学び、地域に貢献し、地域を元気にする学校
- 小規模校の良さを生かし、職員が一体となった速やかな課題解決を図る学校

Ⅲ 具体的な目標 ・ 取組 ・ 推進指標

【具体的な目標】

- (1) 自立と社会参加に向けた教育課程の見直しや授業改善に、計画的にしていねいに取り組む。
- (2) 地域をフィールドに展開する「絆プロジェクト」、交流及び共同学習をベースに「地域の人に感謝される体験」を積極的に推進し、「地域を元気にする学校」を具現化する。
- (3) 地域の特別支援教育のセンターとして、幼保小中高及び教育委員会や福祉等の関係機関と連携し、それぞれの役割が十分に機能するシステムを推進する。
- (4) 生徒指導に係る不応答・問題行動については関係機関とネットワークを強化し、スピーディに柔軟に対応する。
- (5) 効果的な就業体験学習や現場実習の在り方を探るとともに、関係機関と連携して進路指導を充実させ、地域に貢献する人材の育成を図る。

【具体的な取組・推進指標】

- (1) 一人一人の自立と社会参加に向けた「絆プロジェクト」の展開と授業改善
 - 小学部 保育園・小学校との交流及び共同学習、役割を果たし活動をやりきる経験
学年間のつながりを重視した生活単元学習の充実
 - 中学部 作業学習製品の向上と地域での販売、老人施設・中学校との交流
高等部との合同作業地域貢献活動等、高等部へのつながりを意識した学習活動
 - 高等部 本物の体験を目指す生活単元学習：絆カフェ・ショップの充実
地域資源を活用した作業学習製品の品質向上と販売と6次産業化
地域での継続的な貢献活動と就労体験の推進
 - 全 校 体験的・実地的で、キャリア教育の視点に基づく小・中・高一貫した学習の工夫による、基礎的・基本的な力の育成
全校体力づくりの推進と部活動の活性化
保護者との協働による地域行事への積極的な参加と地域貢献活動の推進
- (2) 一人一人の豊かな地域生活を目指した地域生活支援
 - 居住地校交流（小：希望者全員，中：2人以上）の推進
 - 障害理解出前授業の実施（居住地校交流全校実施）とボランティアの活用
 - 障害者生活支援センターや自立支援連携協議会等との連携
- (3) 多様な教育的ニーズに応える教職員の専門性の向上
 - 実践研究充実事業を活用した授業改善・授業力の向上
 - 医療・福祉・地域の専門家の積極的な活用（OT・PT・ST，作業学習の教科等支援）
 - 地域の小・中・高等学校での職員研修（教科の専門性を学ぶ）
- (4) 関係機関と連携し、全校体制で取り組む生徒指導
 - 語る会やケース会議を通じた行動問題の改善(未然防止)と教職員の対応力向上
 - 児童生徒が自分で身を守る意識が育つ防災教育と教職員の災害時の対応力の向上
 - 保護者・施設と連携した防災訓練の実施
- (5) 保護者・施設職員と連携し就職希望者100%を目指した計画的な進路指導
 - 現場実習につながる効果的な就業体験学習の実施（年2回以上）
 - 進路後援会の活用の工夫
- (6) 自校解決力の強化に向けたセンター的機能の推進
 - 市町村教育委員会や関係機関と連携した地域研修会や巡回相談等による各校の支援体制充実への支援
 - 高等学校特別支援隊等を活用した高等学校への支援の充実